

さざなみ寮。

東京の状況が伝えられるたびにある種の緊張が高まっていったのだが、一本の電話でその緊張は崩れる事になる。

「はい、こちらさざなみ寮！」

『…那美か？』

「薫ちゃん！ …よかった…無事なんだね。」

『ああ。いろいろあったけど重傷は無し。悪魔事件は無事終わったよ。』

「そう…」

那美はここで振り返り、リビングのテレビで行なわれている報道を見ながら聞き耳をたてる寮生一同に声をかける。

「薫ちゃんは無事だってー」

「おお、そうかー！」

「よかったあ…」

「おお、流石は薫なのだー」

一気に沸くリビングの面々。

「薫ちゃん、帰りは何時になるかわかる？」

愛の言葉をそのまま伝える那美。

『たぶん、そっちにつくのは深夜になると思う。こっちは雪であちこち通行止めだったり、運転休止が続いてるから…』

「そうなの？」

『うん。ですから、食事はこっちでとるって言ってくれたら。』

「わかったよ。薫ちゃん。」

那美はそのことを耕介に伝える。

「そうか…じゃあ、迎えの車がいるかな？」

「耕介、それは無理じゃないか？」

「え？」

「雪で通行止めとかだからな。…ん、雪？」

ここで真雪がすこし考える。

「…那美、電話をオープンにしてくれないか？」

「え？ わかりました。」

「おーい、薫、聞こえるか？」

『真雪さん？ なんかあったんですか？』

「薫、そっちで泊まるのは禁止。絶対、なにがあっても、こっちに今日のうちに帰ってくるんだ。」

『…真雪さん…？』

「お姉ちゃん、なにがどうしたの...？」

知佳が尋ねる。

「雪ってのは...溶けるんだ。雪解け水っていうやつになったらどうなるかぐらい、想像つくだらう？」

SSFW Outside Story

新世紀アリス伝 / Face Earth

Ep02. 季節はずれの恐ろしさ

H = P A R T / 二つ目の後始末

当然のことながら、政府でもこの雪解け水のことに鷲羽ちゃんが気付き、午後8時をすぎたにも関わらず、閣議は続いていた。

「今回の積雪は多いところで120cm。まあ、東京都で平均を取れば、50cmちょっとだけど...気象庁の予報によると明日からは『普段の季節』になるわ。」

「つまり、すべて溶けると？」

「全部、いきなり溶ける...という可能性は少ないけどあさってには9割近くが溶けてるでしょうね。」

「...それは大変なことじゃあ...」

「しかも、雪のお陰で電線破断のために停電になってる地域もでてるわ。鉄塔のダメージも馬鹿にならないし。」

鷲羽ちゃんはこの説明の間にもものすごい勢いでデータを組んでいた。

「だいたいの予想被害をシミュレートしてみましょうか。」

モニターに首都圏一帯の地図が映し出される。

「まずは、明日の被害状況をだしてみるわ。これはあくまで今、この時点において一切手を打たなければ、の場合よ。」

雪解け水が河川に流れ込むまでの経緯。そして溢れ出す水量。

「地下水道は午前中のうちに目一杯使用しても地面から30cm水没域がここまでになるわ。また局所的には冠水する部分があくまで出てくるわ。」

東京中心区域はほぼ全滅、。

立体交差の都合で周囲より低く道が作られているところは1 m以上の水没があるということである。

「恐ろしいのは東京湾の海峡域からの流出より流入量のほうが大きいという計算ね。普段より50 cm程度の高波になることが予測されるわ。また、海流にも僅かだけど影響がでるわね。たとえば、三浦半島と房総半島の間...ここは大量の水が太平洋に流れ出ることから普段以上の水流が流れるわ。」

ここで、首都圏から関東全域にまで地図の範囲が広がる。

「もっと悪い事に今年はまだ栃木・群馬・山梨県あたりの高山部の雪解け水がまだ残っている、ということね。5月の水量そのものは平年並み、だけど...自然が復活した事による森林の保水能力を加味して平年並み、ということを見ると今回の悪魔事件での雪はほぼそのまま河川に流れ込む事になるわ。」

閣議のメンバーはただ、息を呑むしかなかった。

「さて、洪水も結構問題なんだけど...今回はこれに環を掛けてまずいのがあるわ。」

鷲羽ちゃんがだしたのは地下ネットワーク。

「今回の洪水の結果によってはこのネットワークのうち半数が断線や使用不可能になる可能性が示唆されてるわ。」

そして今度は川の汚染度のグラフがでる。山間部の自然は復活したが、都心部の河川に限って言えばあまり状況は変わっていない。河川の汚染というのは人の排水によるものである以上、生活区域を通れば自然に汚れるとも言えるし、都心部に関して言えば、汚れた川もセットでやってきてるのが普通である。

「さて、洪水でまずいのは日本でも名うての汚泥が人の生活域に流れ出ることによる疫病問題。」

いくつかの病名が示される。なかには赤痢やコレラの名前が混じっている。

「しかも、病院そのものの衛生環境も極めて悪化するわ。下水があらかた全滅するんだから当然よね。」

鷲羽ちゃんはそのごも様々な被害状況をアップしていく。

「...これによる被害は？」

「あくまで推定だけど、死者は3桁に乗ることはないんじゃない。二桁乗るかどうかも怪しいぐらいかな。」

ここで閣議のメンバーはガクッと姿勢を崩す。

「なんやかんやいっても日本は水害に強いからね。それだけ鍛えられてる、ってことでもあるけど。」

「死者のほうは、そうないと？」

「台風とちがい、暴風が無いからね。ものが飛んだりするってことはないわ。しかも明日の天候は晴れ。視界良好な中の洪水よ。ヘリで眺めたらさぞかし壮観でしょうね。これは

これで。」

あっけらかんとそこまで述べる鷺羽ちゃんだが、その次は厳しい顔に戻る。

「ただし、この被害はあくまで水害そのものの被害。実際は二次被害 違うわね。この洪水そのものが二次被害である以上、3次被害というべきね。人命で見ればこっちのほうが大問題。すなわち、家を無くした人のケアと...疫病発生の可能性による死者及び後遺症の問題。」

「確かにそうですね。」

加治首相が頷く。

「でも、これは今すぐの課題じゃないわ。ちなみに経済被害でみるなら1000億単位を見ておかないといけないわよ。」

秋山経済相の顔が暗いものになる。

ここで対処法の検討に移ったが今の人間にできるのは自衛隊の出動、稼働可能なレイバーを一時的に徴発してでも首都圏全域で雪下ろし 海への輸送ということぐらいしか思い浮かばずにいた。

「...鷺羽ちゃんはなにか思い浮かびませんか？」

「ん、あたし？」

うーん、と考え込む。魔法少女たちの力を借りる...という手を考えたが望み薄だろうという考えから消去。

「洪水ってシステムから考えれば逆の手もありなのよね。」

「逆というと？」

「溶けるのを遅らせればいいのよ。」

全員がその提案に驚きを隠せない。

「しかし、どうやって...。」

「直射日光を防ぐだけでも効果は全く違うわ。手を尽くせない場所に関しては天井を作っちゃえばいいのよ。これはちょっとした紙のでも構わないわ。自衛隊だけだと手が足りないことについては、一般人にも報道で呼びかけて今の間に雪が急速に解けないように簡単な屋根を設置してもらうように頼めばいいわ。あとは雪を一箇所にたためてもらうとかね。一気に溶けるのがまずいのであってちょっと時間をずらしてくればそれだけで被害は小さくなるわ。」

鷺羽ちゃんの提案も取り入れられることになった。

なお、川が近くにある部分については今から12時までのあいだに流せるように配慮。川から遠い部分についてはレイバーで雪を出来る限り一箇所に固める。そして即席の天板を設置し、直射日光を避けることにした。

ここで非常に役立ったのが新素材のふわふわだった。なにせ、柱不要(ロープ数本)で天井を設置可能、しかも大型ので頑丈なのを用意できたからである。

午後8時半。政府からの緊急記者会見。

「6時をもって終結した悪魔事件ですが、これからお伝えするのはその悪魔事件で広域に被害をだした積雪に関することとなります。現在、雪解け水による被害を想定したところ、明日・あさってには東京が水没する可能性が出てまいりました。そこで自衛隊に緊急出動をかけるとともに、全レイバー作業員として従事している方々にお願ひがあります。今回の被害は非常に広範囲に広がり、自衛隊では手が足りないのが実情です。そこで、レイバーでの土木作業の経験のある方々は是非とも今回の雪降ろし作戦に参加して欲しいのです。また、一般市民の人々もできれば、雪を一箇所にあつめて頂いてほしいのです。ただ、その配慮だけで洪水の被害が全く変わります。皆様のご尽力を期待しています。」

この言葉に記者から政府の無能をあげる声があがったが、

「今回の事件はあまりにハイスピードでことが進みました。それにくわえ、吹雪という天候災害についてはすでに対処をすることができない事実も考えていただきたい。この記者の方たちの中で今日の昼のときにここまでものすごい積雪がおきると思った人はいますか？僅か4時間で1mも積もったという未曾有の出来事の前には我々はまだ、無力なのです。」

と、反論した。

そして9時には大規模な雪下ろし/雪固め作戦が行なわれた。

陸上自衛隊、航空自衛隊（一部地域は大型輸送ヘリどころか大型航空機を用いて太平洋に搬送、という手段が取られた...成田・羽田両空港近辺がそうである）にくわえ、特機自衛隊も参加。GGGのメンバーは先の戦いで傷が残っているので動けなかったが、沖縄からシズラー部隊が応援に駆けつけてきてくれた。

鉄道網については早急に回復させ、徐行速度程度の貨物列車にレイバーが積み込むという手法で鉄道網近辺の雪は遠くへと運ばれていった。

なお、今回の事件については貨物列車を引くのに旅客車両が使われるという異例の事態があった。大量に搬送する事はできないが僅か一両、二両なら出来なくはない、ということから提案されたのだった。

また、この作業には多くの一般のボランティアが集まってくれた。

そして夜を徹しての作業が続けられ、運命の朝日が昇ることになった。

結末だけを述べよう。

最後の雪が解けたのは事件後5日目だった。本来より長い時間をかけて溶けたこともあり洪水そのものは床下浸水で収まったのである。もっともその水量でも崖崩れや土砂災害は起こった。それによる死者は5名、行方不明7名、重傷者11名だった。

そこに加えて汚泥流出は免れず一部区域はその後の悪臭に悩まされるのであった。

また、汚泥流出による疫病の発生が囁かれたが5月中の段階では発症者こそ出たものの、

迅速な収容に加え殺菌消毒を行い、付近住民にはほぼ強制的に医者診察を受けてもらうということもあり、流行することはなかった。ただ、重体患者が2名。生死の境を未だに彷徨っている。

とはいえ、報道機関での独自の見解では未曾有の大洪水が懸念されていたことを考えれば今回の事件は

報道機関は後手後手の上に大きな失態（華撃団が一度は敗戦したこと）があったことで政府を攻め立てる論調であったが、最後の雪下ろし作戦はおおむね良好な評価で向かいいていた。

今回の事件では最後の最後で失点を挽回した、というのが大体の評価である。

とはいえ、首都圏が約2日間の間、大雪によって経済活動が停止同然に追い込まれ（電線がいくつか断線していたことによる停電が一番大きい）、洪水被害が全くなかった、とはとてもお世辞でも言い切れない。それによる経済損失は10億をかるく超える。

今回の件で保険業界において新たな商品ができることになった。

「悪魔被害保険」

まあ、中身のうたい文句は様々だが、悪魔による被害を受けた場合に保険金を支払う、というものであった。

余談だが、地域によっては（帝都区、東京都、東京湾沿岸が特にそうだが）掛け金が跳ね上がっている。まあ、こればかりは仕方ないであろう。